

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
 発行人 宮内 伸明  
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

## 足元を見て着実に

利根教育事務所管理主監 大竹 孝夫

全国の小中学校において、新しい学習指導要領の全面実施に向けての移行措置が、今年の4月からいよいよスタートしました。それに伴い、授業改善や子どもと向き合うための時間の確保、そして何よりも教育の質を向上させるための教師一人一人の自己研鑽が求められています。子どもたちは、質の高いものにあこがれ、自分をそこまで成長させよう、前進させようと思っています。世代を超え、教師もまた研究や研修を通して、学ぶことの苦しみや喜びを子どもと同じように感じていきたいものです。

さて、利根教育事務所では、今年度、延べ154校(園)への指導主事、社会教育主事による学校(園)訪問を実施させていただきました。それぞれの学校や園の課題に即した指導助言や支援をとおして学校のお役に立てるように努めるとともに、授業研究会や全体での研修会に参加する中でいろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました。今年度の訪問等をさせていただき、特に印象に残った事柄をいくつかご紹介したいと思います。

- ・経営改善が図れるよう、学校評価システムを有効に活用している学校が増えている。
- ・家庭・地域や他の学校との相互理解を深めるための連携を充実させている学校が多くなっている。
- ・教材・教具を周到に準備したり、導入場面を工夫したりするなど、授業改善に前向きに取り組んでいる教師が増えている。

お茶の水女子大名誉教授の森隆夫先生が、「教育は家庭で芽がでて、学校で花が咲き、世間で実がなる。」と言われておりますが、まさにその通りであると思いますし、子どもたちに「花」を咲かせてやるためには、教師が一人一人の子どもに目をかけ、声をかけ、心をかけることが大切であり、それによって子どもたちが自信をもち、意欲をもち、夢や希望をもつことが、まさに「花が咲く」ことにつながると思います。

教育改革が一段落し、いよいよ現場での着実な実践が問われる時期となってまいります。一人一人の教師自らが教えのプロであるということをしっかり自覚し、足元を見て、着実に一歩ずつ前進していきたいと思えます。

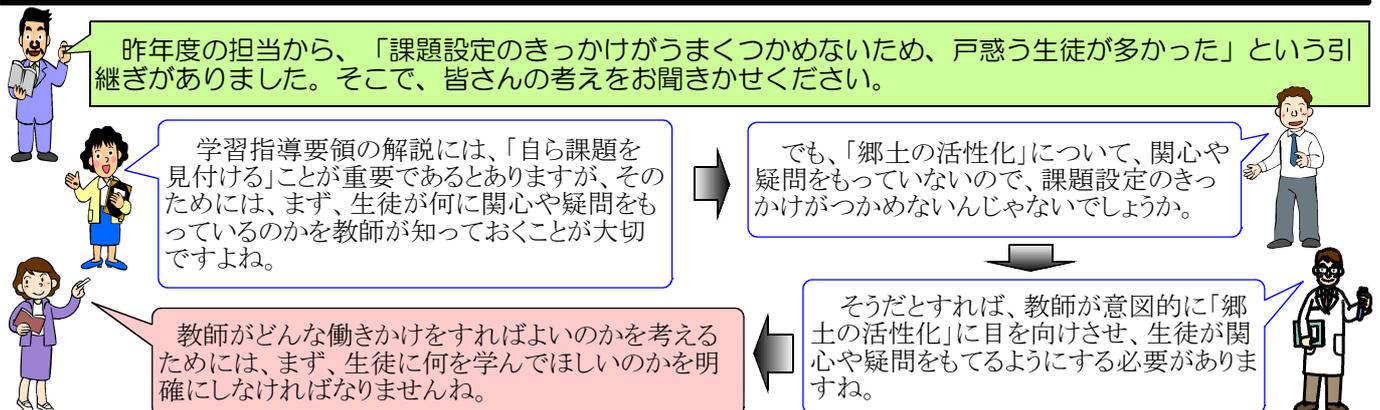
## 学校教育係

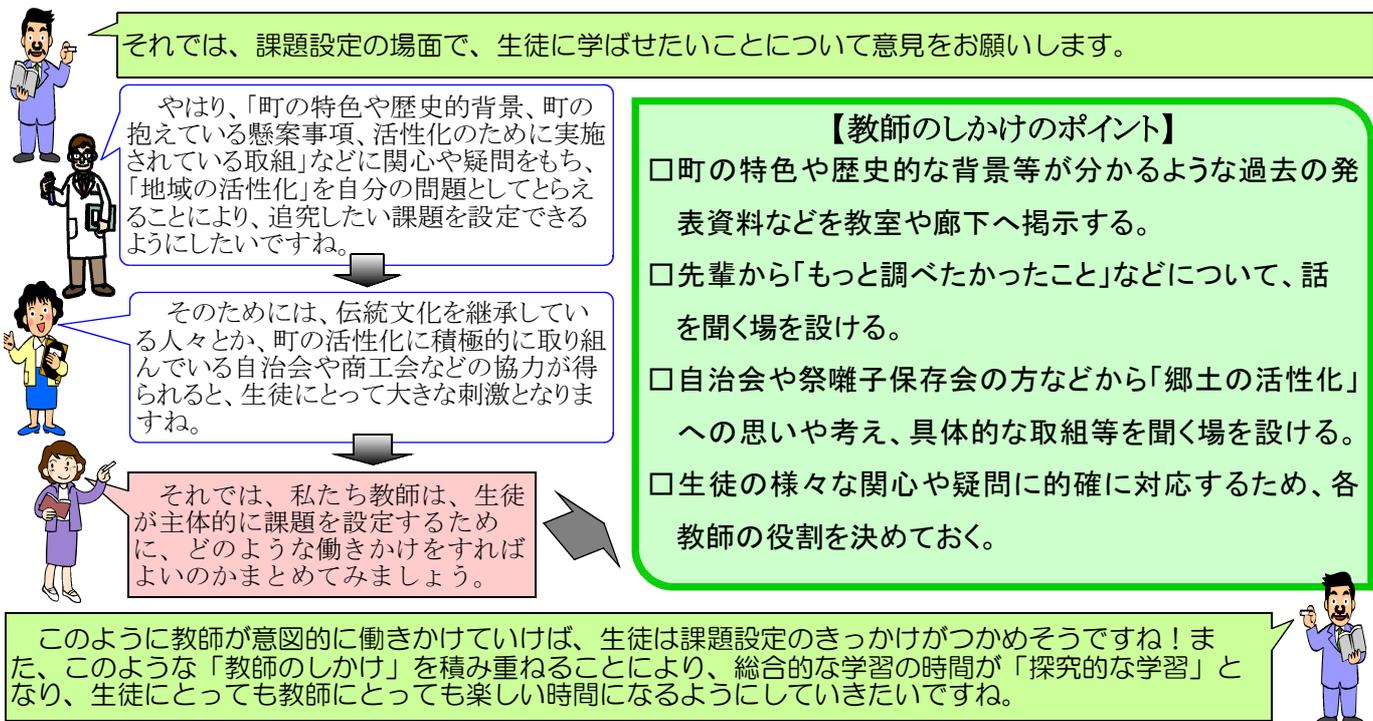
### 総合的な学習の時間の「単元計画」を見直してみましよう＝課題設定の場面の工夫＝

学校訪問や研修会等から、総合的な学習の時間を「探究的な学習」とするために、多くの学校が課題を設定する場面において悩みを抱えていることが分かりました。そこで、改善例を紹介します。

#### 【単元名＝「郷土社会を見直そう」】

A中学校の第2学年では、課題設定の場面における育てたい資質・能力・態度を、「複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する」とし、「郷土の活性化」をキーワードに体験活動等を通して、生徒が主体的に課題設定することを目指しています。





## 生涯学習係

### 「地域と学校が連携協力した教育活動」(学校支援センター)の充実を図りましょう ～社会教育主事の学校訪問から～

「先生!!」と、畑でコンニャク玉の収穫の手を休めて、見回りに来た先生に手を振る生徒たち。11月の肌寒い時期に、腰まで冷たい水につかりながら、大きな鱒を一匹一匹大事そうに捕まえ、体重ごとに別の池へと運んでいる生徒たち。酒造工場では、瓶詰めされた製品にゴミなどの不純物が入っていないか目を皿のようにこらして、次から次へと流れてくる製品をじっと見つめる生徒たち。目的意識をしっかりとった真剣な生徒たちの目がとても印象的でした。



【県水産試験場(川場魚センター)で職場体験する生徒】

これは、川場中学校のチャレンジウィーク(職場体験学習)を見学させていただいた時の一コマです。地域の教育資源を活かすとともに、地域と学校が手を取り合って子どもたちをはぐくんでいる様子が伝わってきました。

他の学校においても、学校行事で子どもたちが老人会の方々と触れ合いながら学級花壇づくりを行ったり、家庭科の調理実習でボランティアの方々が一人一人の子どもたちに包丁の使い方を指導したりするなど、地域の方々の力を教育活動に活かす場面を数多く参観させていただきました。

各学校におきましては、地域と学校が連携協力した教育活動の在り方を、以下のポイントをもとにもう一度確認し、学校支援センターのさらなる充実を図りましょう。

- 【充実のためのポイント】**
- 管理職のリーダーシップのもと組織的な取組ができるように体制を整えていますか
    - ・全職員による学校支援センター組織の共通理解
    - ・学社連携担当の役割の明確化
    - ・コーディネーターの育成 等
  - 「活動のねらい」を地域の方へわかりやすく伝えていますか
    - ・事前打合せや連絡調整会議、情報交換等における「活動のねらい」の共有化と役割の明確化 等
  - 活動の様子や成果を地域へ伝えていきますか
    - ・活動発表会の工夫
    - ・学校、学年だよりの地域への回覧
    - ・学校Webページの活用 等
  - 成果と課題を次年度に役立てていますか
    - ・学校支援ボランティアの活動計画等の見直し、改善 等